

「リニア基本戦略(案)」に対する意見と考え方

No	該当箇所	基本戦略(案)に対する意見	ご意見に対する県の考え方	基本戦略(案)修正の有無
1	リニアを活用した地域づくりのイメージ(22頁)	<p>・地元の人を中心に「自分の地域は自分で考える」を重点に置き、地域資源を見直し、地域の実情が一番わかる住民が中心になれば、実情にあった計画を立てることができる。それぞれの地域が、商工団体・行政等が中心になり目指す未来の姿を考える体制づくりを実施していくことが大切ではないか。</p> <p>・20年～30年の未来を語り合う場を設定し、柔軟な頭で持って「夢」を語り合う組織をつくる。</p> <p>・「絵に描いた餅」にならないようする。 立派な計画書を策定しても実現不可能な計画にはならない。</p>	<p>・当研究会では、次のステップである第2段階「リニア活用戦略」の策定において、リニア中央新幹線の開業による効果を最大限に引き出し、その効果を持続させていくための具体的な取り組みの検討を行うこととしておりますが、その中では、ご意見にありましたように、地域の実情にあった、実効性のある計画を立てることができるよう、検討の体制づくりにつきましても検討をしてみたいと考えております。</p>	無
2	その他(リニア中央新幹線計画全体)	<p>・今回の東日本大地震では、在来線を使って秋田から岩手に物資の輸送ができ、これも全国同じ規格だからできたことであり、必要なのは特別に分離された高速鉄道ではなく、在来線との細やかなネットワーク、利便性が確保されているひとびとの生活や安全のための路線ではないでしょうか。 既存の路線を活かした高速化、利便性・ネットワークの強化こそが地域を壊さないと振興につながると思います。</p> <p>・少子高齢化で乗客も減る中、JR東海がリニア建設に耐える収益を上げ続けることができるのか非常に疑問です。 海外へのリニア売り込みについても、高速鉄道に関しては速度でもコストでも既に中国に抜かれたのでリニアがアメリカに売れる可能性はゼロだとの識者の見解もあります。 中国の高速鉄道は昨年末までに既に時速486kmを達成、6月から北京―上海を走ることになっているそうですが、そのコストは1kmあたり20億。それに対して、JR東海のリニアは時速500kmが出るとはいえ平均走行速度は400kmだそうですし、コストは1kmあたり200億とのことで、採算がとれるのか大変不安です。</p> <p>・リニアについては電磁波の問題も解決されていません。専門家によれば、ただ電磁波が強い弱いというだけではなく、リニアで使用されるパルス波(パルス派は細胞融合技術に使用される)が人体の細胞に与える影響がとて心配されるとのことですが、このことについてJR東海は説明をしていないそうです。</p> <p>・リニアは新幹線の3倍の電力を使うとも言われており、これ以上、電気を使用する社会に進んでしまってもよいのかという問題もあります。 福島第一原発の過酷事故により、このまま原発を動かしてよいか、電気の消費をできるだけ抑えて自然エネルギー率を高める方向に進まなくてはいけないのではないかとひとびとが考え始めているときに、このままりニアを進めてよいのでしょうか。既に岐阜県のお隣には原発銀座があり、県民も事故が起こることに不安を募らせていることから、知事や議会も対応を迫られているところと思います。リニア推進については今一度、慎重なご検討をお願いいたします。</p>	<p>・リニア中央新幹線につきましては、国の交通政策審議会において、ご意見をいただきました「走行方式」「JR東海の事業遂行能力」「磁界への対応」「超電導リニアの消費電力」をはじめとする様々な視点や論点について審議がなされ、平成23年5月12日に国土交通大臣に答申が行われたところです。 当研究会としましても、国、JR東海等からの情報収集に努めてまいりたいと考えております。</p>	無